

〈H26 年度第 6 回「自転車セミナー」報告書〉

日 時：平成 27 年度 2 月 18 日(水) 18：00～20：00

場 所：自転車総合ビル 6 階 601 会議室

(東京都品川区上大崎 3-3-1)

講 師：松田 志行氏

テーマ：「松田の自転車づくりと考え方」

人 数：44 人

〈要旨〉

◎松田氏の自転車づくりの考え方をテーマにオール内蔵レーサーの開発秘話などお話をいただきました。

プロフィール

松田氏は東京都荒川区で「サイクルスタジオ LEVEL(レベル)」という工房を営む自転車ビルダーである。ブランド 30 年以上のキャリアを持っており、ひとりひとりの身体に合わせ細部に渡って設計して 1 台 1 台ハンドメイドで作っている。

今の松田氏が力を入れているのはイラストで描いた自転車を実際に実現する事。「こういうものがあればいいと思うものを実際に作って形にする。デザインをした人とお客様の両方に喜ばれる仕事はそうそうないと思うから」と松田氏はいう。

○松田氏と自転車との出会い

戦後昭和 26 年に父が創業。松田氏が(当時 22 歳)大学を出た際入社。それまでに家業を継ぐことは考えていなかったという。

なぜか？それは自転車製造は苦勞の割には儲からないから。

父親時代はいい時もあったと聞くがそれも一時であった。

一度も頼み事をしたことがなかった父に「後を継いでほしい」と頼まれことを受け、入社を決意した。

○コンパクトサイクル制作

25 歳から 26 歳 風変わりで人気となる自転車を作りたく折りたたみ自転車を制作。

ハンドル中央部を触ると下側にハンドルがひっくり返せる。シートの高さがヘッドの高さ。ペダルも内側に曲がり、車のトランクにも収納できる自転車を制作した。最終的に 300 台ほど制作半分ほど売れた。

当時は高さ、シートの角度等考えず作成したため乗りづらかったが、スピードは普通の自転車より早く、コンパクトで非常にクイックな自転車が完成した。

いい物を作ったが乗りづらい、松田氏にとって記念すべき一台だった

○CAD システム制作

当時原寸大の図面を作成しており時間も労力もかかることからコンピューターを使用した CAD システムの制作にかかった。

図面上問題がある場合(タイヤが外れる、ポジションが悪く足が当たる等の場合)は警告ランプがつく等の対策も考慮した結果、これらのシステムを作るのに2年間苦心した。

後にニューサイクリング誌に詳細記事掲載を受諾。掲載してまもなく記事の載った号のバックナンバーが出版社にもなくなってしまった。どうやら関心のある同業者が買い占めてしまったという噂であった。

○105 シマノの自転車制作

カタログ用の自転車制作依頼が来た。斬新な自転車のデザイン画を元に複数の会社に相談したが断られ、たまたま自分のところに問い合わせが来た。納期はあと1週間。

ハンドルの作りやフレームの作りなどシマノが依頼してきた男性用、女性用それぞれの自転車を希望通り制作することができた。

後にミヤタ(スポルディング LA)やBS(カマキリセレクト)も斬新なデザインで作るきっかけとなった。

○オール内蔵レーサー

CAD システム制作後「商売上手だが腕がない」と噂を立てられ「それらを払拭するにはどうすればいいのだろう」とオール内蔵レーサーの制作を決意。

4月29日からの大阪サイクルショーに展示するため、3か月6人で自宅に戻らず工房にこもりっきりの生活を行い制作した。

当時朝まで制作していたこともあり近所からは不思議がられたという。

内蔵レーサーは前例がないためブレーキ部分に苦戦。マエダの展示会でヒントを見つけ何とか前日12時に完成した。当時宅急便はないため夜通しかけて大阪のサイクルショーへ向かった。

オール内蔵レーサーは前例のない自転車だったこともあり展示会の担当者から保険をかけると話が出た。

考えた結果3か月の労力を踏まえて6人×50万=300万円と設定した。

サイクルショーでの反響はとても大きく、日を追うごとにお客さんが増えたそうだ。

このオール内蔵レーサーの評判によって、LEVEL に対する悪い噂を払拭することに成功した。

○まとめ

現在の30年以上のキャリアを持つ松田氏でも、パーフェクトな自転車を作ることは日々苦戦している。なぜなら、ろう付けの歪みであったり塗装でも数ミリの誤差が生じる。自分自身この歳になってもまだまだ未熟だなと感じている。

「デザイン・値段・機能」は実際にお客さんが見てわかる部分である。

競輪などで優秀な成績を残すビルダーのハイクラスのフレームでは「精度・強度・性能」といった人の目

には見えないところで勝負している。

自転車はみな同じだと思っている人が多いと思うが、これからは高付加価値な自転車売れると思っている。大規模メーカーがこれらの自転車に参入してくると、個人のビルダーはコスト的にも供給体制でも非常に厳しいという問題がある。

松田氏はオリジナルな自転車のデザインや値段、機能で独自の良さを出してお客様に満足して頂ける自転車を作って勝負していきたいと考えている。

最終的な松田氏の目標は、従業員の週休の確保や待遇面の改善などを考慮した「普通の会社を作ること」。現状の小規模なフレームビルダーは長時間労働で、時間工賃に換算すると給与も低く家族を養って食べていくのはきついと松田氏はいう。これまでの松田氏の歩みと今のハンドメイドビルダーの現状について熱い思いを込めて切実にお話して頂きました。

最後に質疑応答をして本セミナーは終了した。

〈セミナー様子〉

